



2月号
発行

大沢ふれあいのまちづくり
協議会広報部会

<http://www.ozo.jp>

「県民交流広場事業」
今年度の総括

整備された地域福祉センターを拠点として昨年四月から具体的な活動がスタートした。「県民交流広場事業」は事業計画に基づきさまざまな活動が予定通り進められており成果をあげています。二十年度の実績をふまえて来年度はさらに活発な活動を展開していきます。町民の皆様の一層のご参加をお願いします。(乗井幹雄)

ふれあい昼食会

八月を除く毎月一回(原則として第二木曜日)実施している「ふれあい昼食会」は各種団体やボランティアの皆さんに支えられて高齢者のふれあいの場として毎回盛り上がりを見せています。年四回(三月、六月、九月、十一月)は「らぼーと」のご好意により施設をお借りして実施しています。昼食後のアトラクションも参加者に楽しんでいただけるよう内容の充実を図ります。一人でも多くのご参加をお待ちしています。送

料理教室

迎の必要な方は地区の民生委員にご相談してください。(乗井幹雄)
県民交流広場の助成を受けて始めた料理教室。第一回は地元野菜を使った他地域婦人会の方との交流料理教室。第二回は男の料理教室でイタリアン料理に挑戦し大好評!第三回はおせち料理。第四回は米饅頭作り、尾上様・大植様にご指導頂きました。二十一年度も四回の料理教室を予定しています。皆さんのご参加をお待ちしています。(和田佳代子)

パソコン教室

本年度は、地域福祉センターで、六回の教室と月の第一、第三月曜日に個人教室を随時開講しました。前半は多くの参加者を得、後半は参加者もちよっぴり減となりましたが、トライしようという情熱で楽しい教室を開講することができました。ものを創造し、情報等を手するにもパソコンは大変便利。来年度も開講します。一度覗いてください。(大家重明)

やまびこ茶屋

今年度、県民交流広場事業の助成を受け、各地区及び全体会のふれあい喫茶では、各方面の講師をお招きし楽しい会になりました。防災についての話、振込み詐欺の話、地域伝統行事の話、またリコーダーや箏曲の演奏等、会場はいつも和気藹々とした雰囲気でした。三月二十五日の全体会も多数のご参加をお願いします。参加者の笑顔にスタッフも元気をいただいています。(高山潤子)

農業塾今年度終了

大沢町コンパクトタウン研究会 農業活性化部会の活動として開催している「大沢農業塾」も、二月二十八日で今年度の修了式を迎えました。大沢町の過疎対策を念頭に、農業を通じて何か出来ないかとの思いで活動していますが、行政側の評価とは裏腹にスタッフの減少をはじめとして、町全体としての取り組みに至っていないこと、それは努力不足であったと反省しています。そんな中で今年度も二十名の塾生が課程を修了され巣立っていかれました。また、昨年度の修了生が県の就農資格を取得されたと報告にこられたことは、大変嬉しい出来事でした。今後かれらが沢町で農業従事者になってくれれば本望なのですが。来年度からは就農支援イノストラクター達の研修施設として指定されるなど、なんとか大沢町のPRにはなっているようです。今後もフルーツパークさんと連携して、地産地消を目指した取り組みに邁進します。(石井保行)

婦人会便り

料理教室

去る一月三十日地域福祉セン

ターに於いて、県民交流広場事業の一環としての料理教室を開催致しました。講師として尾上つる恵様に来ていただき、昔懐かしい「米まんじゅう」と、大植真智子さんのお母様直伝の「水ようかん」を作りました。二十人位の参加でしたが、私達の年代には、とても懐かしく思いましたが、若い人達の中には、知らない人達もおられました。饅頭の生地作りから形づくりにまで、みんな真剣に説明を聞き、なかなかの手つきで、ほんとうに初めてとは思えない程、上手に出来上がったと思います。又、大植さんの水ようかんも、寒天の溶かしがげんから、こしあんの作り方まで丁寧に教えていただきました。どちらもおいしく、又たくさんのおみやげもいただき、大満足の料理教室だった様に思います。二人の方にはほんとうにお世話になりありがとうございます。また七月頃に、「柏餅を作ろう」と思っておりますので、今

回出られなかった方も、是非参加してください。心よりお待ちいたしております。作ってみたい物も募集しておりますので・・・

(西浦美恵子)

五町ふれあいウォーク
桜咲く四月五日(日)に実施
雨のため延期となった五町ウォーキングが四月五日に大沢町の丘陵の古寺(般若山光山寺)と古社(重要文化財指定の豊歳神社)を訪ねる約八・五kmのコースを予定しています。参加費は無料です。但し、昼食、お茶などは各自でご持参下さい。各種団体やボランティアの皆さんの御協力による「豚汁」やコーヒー、紅茶などのサービスもあります。

今年例年より早い桜の開花が予想されており、おそらく当日は大沢の里山に咲いた美しい桜が参加者の目を楽しませてくれることでしょう。スタッフ一同は、町外から訪れる多くの人に、大沢町の豊かな自然と歴史や文化にふれて

いたいただき、大沢町の魅力を再発見してもらったための諸準備をすすめています。町民の皆様も、多数ご参加下さい。参加申し込みは三月二十三日(月)までに各地区自治会長まで

去る二月八日、福厳寺様大沢寺様両住職様により忠霊塔外周工事の完成に伴い入魂の儀を各自自治連合会の役員様をはじめ婦人会長、遺族会役員、及び会員、連絡所長様、JA大沢支店長様そして事業者の方と共に執り行いました。六十数年の風雨に耐えその威容を誇って来ました忠霊塔の外周の損傷が酷く、今回一念発起して皆様方の暖かい浄財を頂き改修を致しました。見違えるほど立派に美しくよみがえっております。たくさんのご浄財を頂きました事、誠にありがとうございました。皆様方の篤い思いに感謝申し上げます。

忠霊塔外周工事完成
入魂式行う



昭和十八年に建立されたと聞きますが、当時の事を思い出すと大変なご苦労であったと思われます。物資の不足、若者は兵役にとられ立地条件の悪い中で本当によく頑張られた事と頭が下がります。尊い犠牲者に対する思いが強くなるだけに手あつく祀られたと思えます。あれだけの立派な大規模な忠霊塔は、この近辺では無いと聞きます。大沢町の大きな財産であり誇れる宝物と思えます。戦後六十数年が経ち戦争を知らない世代が多くなり忘れかけられていられるのも事実です。あの戦争の悲惨さを教訓として二度と繰り返すことのないように、そして命の尊さをいついつまでも後世に伝えていくことが今を生きるものの務めかと思えます。慰霊の塔ではありませんが同時に大沢町の平和への願いの大きなシンボルとして忠霊塔をそしてやすらぎの丘を心をこめて大切に守っていかねばなりません。沢山の皆様方から尊い貴重なご浄財を賜り本当にありがとうございます。建設委員一同心より厚くお礼申し上げます。

建設委員一同心より厚くお礼申し上げます。

(小西 篤信)

ふれあい喫茶でむかし遊び

お手玉・あやとりが、『昔あそび』と言われる様になりました。剣玉は全国大会の競技となりました。

『あそび』も時代と共に変わります。やすらぎの里道場あんしんすこやかセンターでは、『昔あそび』で記憶を呼び覚まし、昔に返って一緒に楽しみ、笑いあう地域の仲間づくり事業を、やまびこ大沢の方々の協力を得て、ふれあい喫茶の時に実施いたしました。

みなさん、『昔取った杵柄』。何度も挑戦、「できた！」得意満面の顔・・・笑顔と共に何時の間にか歌声も生まれていました。『介護予防』を、難しく考えず気安く、どなたも参加できる事業にしたいと思っています。

大沢町の活力の担い手になれるようセンター職員一丸となります。『いつまでもお元気です！』センターの願い、地域の願いを一つにして、これからも元気の源を企



春よ来い早く来い

画してまいります。ご期待ください。(やすらぎの里道場 上野)

寒い冬から暖かい春の訪れをだれもが待ちわびています。福厳寺では、無病息災と邪気払いを祈願しての節分会がありまし。お経に続いて迫力ある小鼓演奏も奉納されました。終了後、「あ

戦地慰霊の旅

つあつだいこ焚とつきたておもちを食べて長生きしましょう」をテーマに楽しい催しが開かれました。味がしみこんだ大根と杵づきの柔らかいおろしもちに、三十余人の参加者は大満足でした。常々、私たち寺総代は、お寺を仏事の時だけでなく、多くの人達が集い、交流の場になってほしいと考えてきました。来年も、更に輪と和が広がっていくことを心より願っています。「合掌して箸を納むる大根焚」(下坂正博)

昨年十一月に亡き父の眠るフィリピンへ慰霊友好親善の旅に参加し、行ってきました。現地では山に逃げた日本兵をアメリカ軍が無差別に爆撃をして山も町も焼き尽くしたそうです。この戦争で戦死した兵士の倍の現地の人々が亡くなっています。戦場であったクラーク空港もピナツポ火山の噴火でなくなりアメ



リカ軍も其の時に撤退しました。たいたいした武器も食料も持たされず戦死した日本兵、日本とアメリカの戦争に巻き込まれて死んだ現地の人のこと、戦争が終わればさつさと帰ってしまうアメリカ軍を思うとなんと残酷で無意味な戦争だったのかと考えさせられます。現地を発つ前に異国の地で眠る父を偲び、もう二度と戦争がないように祈りを込めてピナツポ山に向かって「ふるさと」「海ゆかば」を合唱しました。最後にお世話になった方々に感謝します。(仲池君代)

おぼろげなごころのすすめ

玄米ご飯

お料理は喜んで食べて頂ける人があつてこそ作ろうという気になるものではないでしょうか。体は食べたものによつて成り立っているのですから、栄養をバランスよく取れた人は健康体、病気になるのはどこかいけないところがあつたのでは、そこで、どうすればよいか。私は、三十五年程前から玄米ご飯を続けています。何でも芽の出るものを食べると良いと、教わりました。白米は「粕」と書きます。良いところを捨てて、粕を食べて、他のもので栄養をとつて、そのとり方にアンバランスがあつて、病気になる、菓を飲んで、副作用で悪くなりではないでしょうか。圧力の炊飯器があれば、簡単に簡単に炊けますし年齢に応じた食事をしないと、血管の病気になります。

そしてずっと継続しないと、よい事も、よいきざしが出ないのでと思います。(岩田智津子)

サークル紹介

絵手紙の“わ”

手書きのハガキ・手紙が世の中から減っている時代。送る人のことを思いながら言葉や絵を書くそんな絵手紙はほのぼのと心が温まります。

投句

俳句
ふんわりと頬にとけたり牡丹雪
初旅に乗り合はしたる京言葉
雪降りて雪の音のみ過疎の村
つくづくとわが全貌を初鏡
月並に年を重ねて年女
初雪やまはゆきはかり古障子
寒紅や惹くをためらう八十路かな
あくびする我家の猫も初夢か
ひ孫より片言まじり初電話
初春や小さな鯛も喜び合ひ

手で言いた文字は、心に優しく、筆と墨で書いた絵は心に響く。その上、色加わると実に華やかです。見て、読む。何回でも取り出してみたい力があります。落ち込んでいた時には、元気が出ます。こんなお便りを送りませんか？

毎月二十二日に地域福祉センターで活動しています。作品は、大沢町民芸術祭や郵便局・らぽーと等に展示されます。

字はチョット：絵は苦手という方も気持ちがあれば大丈夫。味のあるお便りが書けるはずですよ。

何かを始めたいと思つている人、絵手紙からはじめ



コンパクトタウン 研究会全体会
3月19日(木)20時~
地域福祉センター
平成20年度の取り組みについて
今後の課題について
県民交流広場事業の推進状況等について
まちづくりに興味のある方のご参加もお待ちしています。

町民の動き

2/21 簾 乗井雅博さん
工藤晶子さんと

1/29 中大沢 仲岡哲也さん
喜平ちゃんを

2/19 日西原 山中誠一さん 86歳